

皆様

平成 25 年 12 月 10 日

今日は、セブ島北部西海岸の調査を行いました。この地域では、高潮による被害は報告されていませんでしたが、台風の通り道でもあり、強風により大きな被害が報告されていたことから、高潮の有無について確認するために調査を行いました。

現地調査は、Bogo の港周辺、Medellin、Bgoy の 3 ヶ所で行いました。

1) Bogo の港周辺

Bogo 港周辺に居住している何件かの住民に対する聞き取りの結果、この地点においては、高潮の襲来はなかったと判断しました。なお、この場所の地盤高は、1.70m (N11°03'14.60" E124°00'19.14"、潮位補正前) である。

2) Medellin

海岸部にある海遊びが出来る施設の従業員（台風襲来時に現地にいた）への聞き取りを行ったところ、「台風の襲来時は干潮時であり、沖合まで遠浅の砂浜がみえていたが、沖合で砕波した波が海岸に位置する施設のところまで押し寄せ、通常の状況とは異なっていた」という証言と「そのような状況は、11 月 8 日の 9:30 から 10:00 の間であった」という証言を得たため、高潮が発生していたと判断し、高潮高を計測した。

1.30m (証言) N11°07.249' E124°01.286' 潮位補正前

3) Bagay

Bagay でも、周辺住民への聞き取りを行った。海岸から少し離れた所に住む住民の証言では、海水の侵入はなかったとのことであった。一方、海岸のマングローブ帯に居住する住民への聞き取りでは、「台風襲来時には避難をして現地にいなかったものの、台風通過後に家に戻った際には、建物は、被害を受けていたが床は残っており、床の上には海水が上がった痕跡はなかった」との証言を得た。Medellin の状況からすると、この地区でも高潮が発生していた可能性は否定できないが、今回の調査では高潮が発生していたと判断できる材料はなかった。ここでは、念のため、上記の家の床の高さを計測した。床の高さは、1.43m (N11°11.810'、E124°02.248'、潮位補正前) であり、仮に高潮が発生していたとしてもこの高さ以下であったものと推察される。

本日のセブ島での調査完了により、本合同調査団の現地での計測作業は、全て終了した。明日は、マニラに移動し、関係機関等への調査結果報告、関連情報の収集、意見交換を 13 日（金）まで継続する予定です。

松丸 亮（調査隊長代行）